

## 多職種連携入門

責任者・コーディネーター	教養教育センター教務専門委員長		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野、人間科学科哲学分野、人間科学科文学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、人間科学科法学分野、情報科学科数学分野、物理学科、化学科、生物学科、人間科学科体育学分野、医学部医学教育学講座、医学部神経精神科学講座、実験動物医学研究部門、図書館		
担当教員	工藤 裕子 准教授、遠藤 寿一 教授、平林 香織 教授、三浦 康宏 助教、藤澤 美穂 助教、廣瀬 清英 講師、江尻 正一 教授、飯田 安保 講師、佐藤 英一 教授、小松 真 講師、小田 泰行 助教、寒河江 康朗 助教、中島 理 准教授、東尾 浩典 講師、岩淵 玲子 助教、吉田 潤 助教、松政 正俊 教授、三枝 聖 講師、角井(蛭田) 千鶴江 助教、相澤 文恵 准教授、James Hobbs 准教授、小野 美知子 准教授、柳谷 千枝子 助教、小山 薫 准教授、佐藤 洋一 教授、星 克仁 講師、花木 賢一 准教授、司書		
対象学年	1	区分・時間数	講義 15 時間
期間	前期		

### ・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、誠の医療人となるために初年次に身につけるべき心構え、学修態度、自主学習能力、コミュニケーションスキルの基本を会得する。本学の歴史と建学の精神を学び、医学・歯学・薬学、三学部の学生が協同してPBL形式のディスカッションを行い、問題解決のプロセスを自立的に学習するとともに、チーム医療の在り方について行動科学的な視点で考える。また、実験動物や自分自身のメンタリティにまなざしを向けることの意義についても理解し、より広い視野で医療の在り方について洞察し、自己をメタ認知するための足掛かりを形成する。

### ・教育成果（アウトカム）

120年に及ぶ医療人教育の実績をもつ本学の建学の歴史と地域医療と誠の医療を実践するための建学の精神に深く思いをいたし、医療人としての自己像を意識する。ブレインストーミングのスキルを身につけ、合理的な問題解決のプロセスをふむことができる。グループ討議を通してコミュニケーションの大切さとむずかしさを認識し、積極的な自己開示の必要性を知るとともに、グループ討議の成果をわかりやすくまとめ、発表することができる。自分以外の人や自分が直接かかわっていないことからへの理解を深めることで、専門職連携の重要性を強く意識し、今後の学びに反映させる。

・到達目標 (SBO)

- 1、建学の歴史・建学の精神について説明することができる。
- 2、KJ法等のブレインストーミングを実践し、医学・歯学・薬学それぞれの立場を念頭におきつつ問題点を抽出できる。
- 3、グループ内で積極的に討議し、その成果をわかりやすくまとめ、発表することができる。
- 4、実験動物学・メンタルヘルスに関する基礎知識について理解することができる。
- 5、チーム内コミュニケーションの可能性と問題点について説明することができる。
- 6、チーム医療の現場における行動科学的問題について説明することができる。

・講義日程

(矢) 東 SGL1~50、大堀記念講堂 他

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/17	金	3	医学部医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	学長特別講義 (大堀記念講堂)
4/24	金	3	教養教育センター	担当教員全員	ワークショップ1 PBL オリエンテーション (大堀記念講堂) KJ法による問題点の抽出
4/24	金	4	教養教育センター	担当教員全員	ワークショップ2 二次元展開による問題点の整理 (SGL 室)
5/1	金	3	教養教育センター	担当教員全員	ワークショップ3 プロダクト作成 (SGL 室)
5/1	金	4	教養教育センター	担当教員全員	ワークショップ4 ポスター発表 ポスターのピア評価 (SGL 室、多目的ラウンジ、ラーニング・コモンズ)
5/15	金	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	多職種連携におけるコミュニケーションについて (大堀記念講堂)
5/15	金	4	教養教育センター	担当教員全員	ワークショップ5 コミュニケーションスキル向上のためのワークショップ (SGL 室)

6/1	月	1	実験動物医学研究部門	花木 賢一 准教授	実験動物学概論
6/12	金	1	神経精神科学講座	星 克仁 講師	メンタルヘルス講義
7/22	水	4	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	行動科学から考える地域医療における多職種連携

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書・参考書等はありません				

・成績評価方法

講義の聴講態度・講義内容の把握・課題への取組・グループ討議への参加態度によって総合的に評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示